【分野】野 菜

準高冷地で夏期に葉が枯れにくいキャベツの育苗方法

【要約】
通常の液肥の施用回数のまま、育苗日数を通常の約28日より13日程度長くすることで、定植後の葉の枯れを軽減できます。

【背景】
準高冷地の蒜山地域では、夏から秋に収穫するキャベツを栽培していますが、高温期に定植すると葉の枯れや生育不揃いが発生しやすいため、定植後の高温や乾燥の影響を受けにくい育苗方法を検討しています。

【結果】
定植後に葉が枯れにくい苗作りのためには、１日の灌水回数は苗が萎れない程度、液肥施用は機械で定植できる草丈になるのに必要な回数とし、目標の草丈到達後は灌水のみで13日程度管理し、乾物率を高めることが有効です。

図１　追肥と灌水を必要量にとどめ、育苗日数を通常より長くした苗

担当：農業研究所　高冷地研究室(0867-66-2043)

研究課題名：加工・業務用キャベツの周年安定生産供給技術の確立（R4～R6）